



令和6年度 決算特別委員会 総括

町の「今」と「未来」を読み解く

総括ハイライト：3つの重要な転換点



財政の転換点

貯金が借金を下回る時代へ突入。大型プロジェクトのピークを迎え、財政は「貯蓄型」から「投資・管理型」へシフト。



地域医療の危機と模索

新得クリニック閉院により巡回診療が停止。法的壁に阻まれる中、新たな「オンライン診療」への移行を準備中。



「マルチワーカー」始動

夏は農業、冬はスキー場。季節労働の課題を解決する「特定地域づくり事業協同組合」が北海道の認定を取得。



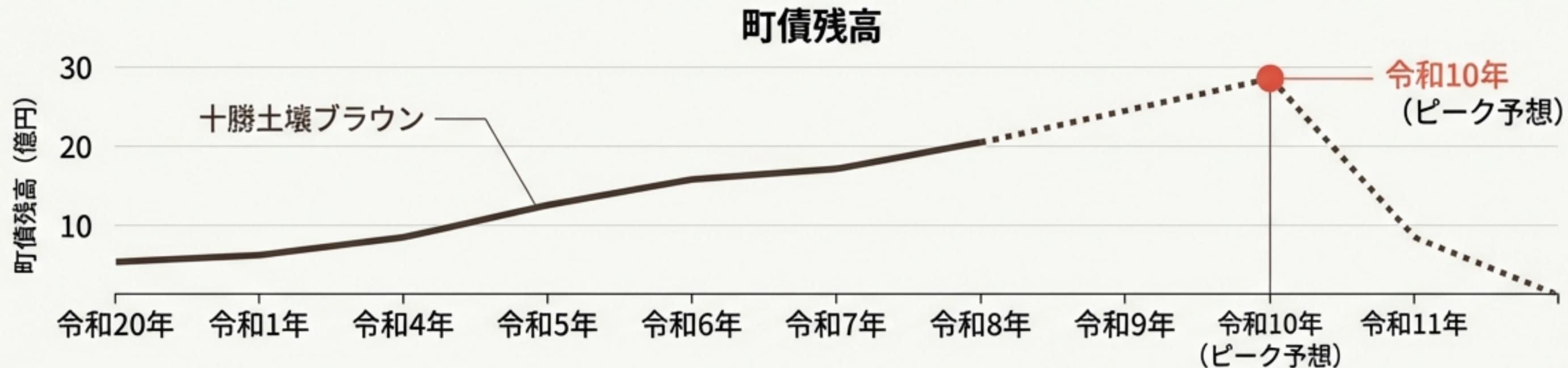
「貯金超過」時代の終わり



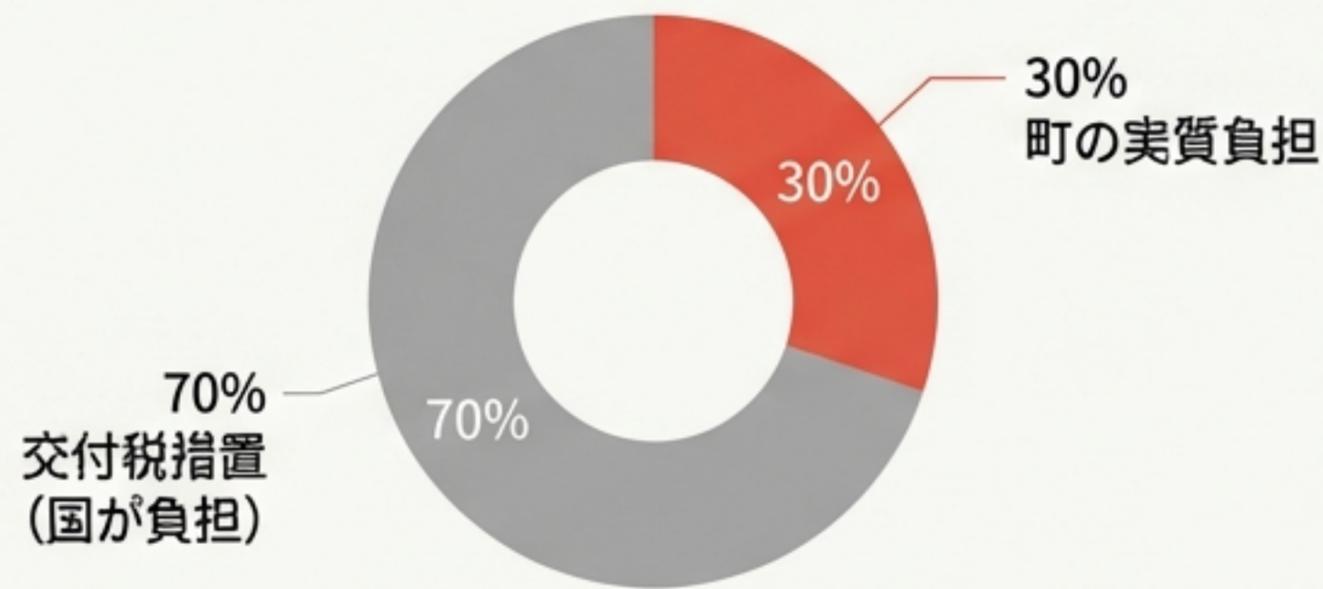
Q：物価高騰と大型事業（役場・駅前）で、将来にツケを残していませんか？

A：借金超過のフェーズに入りましたが、実質公債費率は7.8%（前年比1.4%減）です。長期的にも12%以下に抑え、健全性を維持する計画です。

借金ピークの管理：なぜ行政は強気なのか？



過疎債（かささい）の仕組み



戦略的投資（駅前整備、役場庁舎、道の駅）には、有利な起債を活用。

「借金の額面」ではなく、「実質的な負担」は3割に圧縮されています。

“費用対効果と交付税措置の高い事業を優先し、持続可能な財政を維持します。”

公有財産の「断捨離」：昭和からの脱却



現状の課題

- 学校：40年前の顕微鏡が放置されている
- 町営牧場：使われない孵化施設や古い機械
- 現場の声：「勝手に処分できない」



行政の対応



- 監査による指摘と点検の実施
- 現場判断での廃棄を促進
- 学校顕微鏡は「1台」に集約、不要物は即時処分へ

9月の大雨：夜間避難のジレンマ

議員の声

スマホのアラートは高齢者に届かない。周囲は寝静まっている。夜の嵐の中、**外へ逃げるべきか、自宅の2階（垂直避難）に留まるべきか？**

22:00 / **警戒レベル3相当**

行政の対応

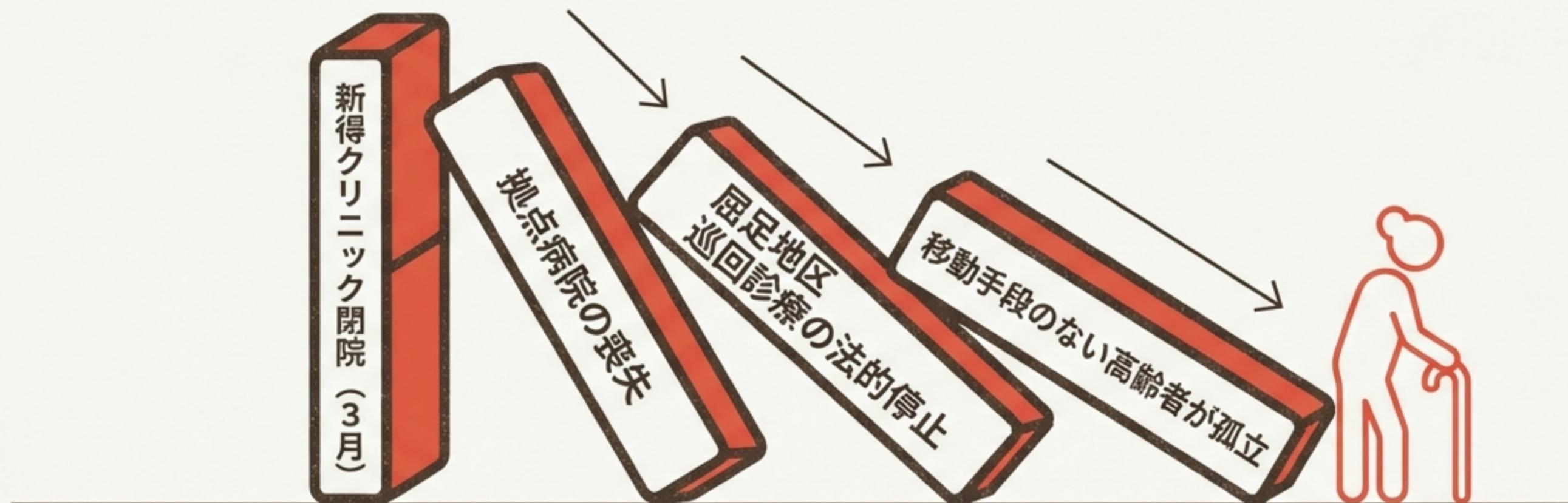
今回は河川水位をカメラで監視し、氾濫の危険なしと判断。パニックを防ぐため、**あえて招集をかけませんでした。** 今後は「**近助（近所の助け合い）**」が鍵となります。

猛暑への適応：エアコン設置状況レポート



主要施設の整備は完了。特別教室やテナント等の個別案件は、今後ケースバイケースで検討。

地域医療の空白：新得クリニック閉院の波紋



現状：北斗クリニックとの資産譲渡交渉中（所有権の整理）

原因：医師不足と経営の持続性

医療の未来：「オンライン」規制緩和を待つ



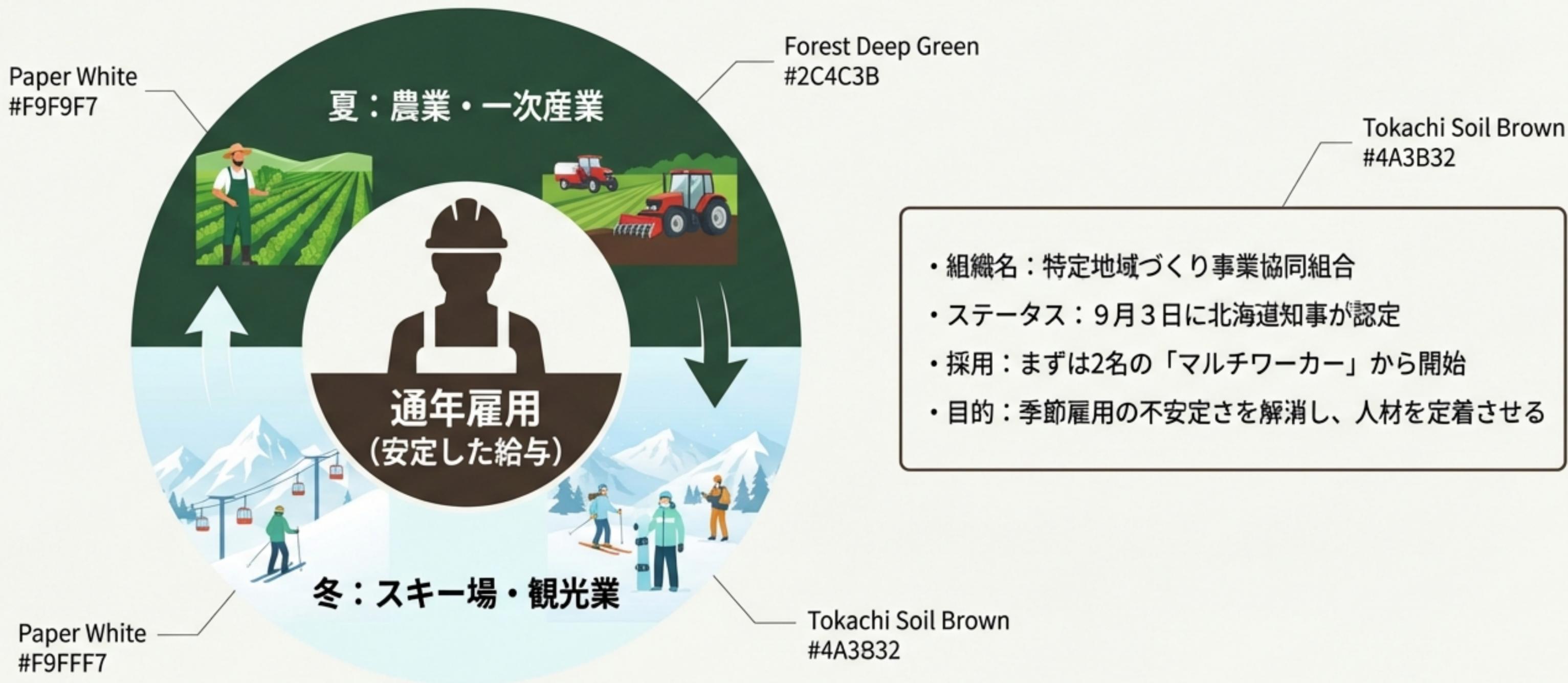
巡回診療（医師不在のため不可）

- 医師の新規確保は困難
(Plan A)
- 国によるオンライン診療の
規制緩和が年内に見込まれる
- 町は法改正後、直ちに導入
できるよう準備中 (Plan B)



ICT / オンライン診療

労働力の革新：「特定地域づくり事業協同組合」

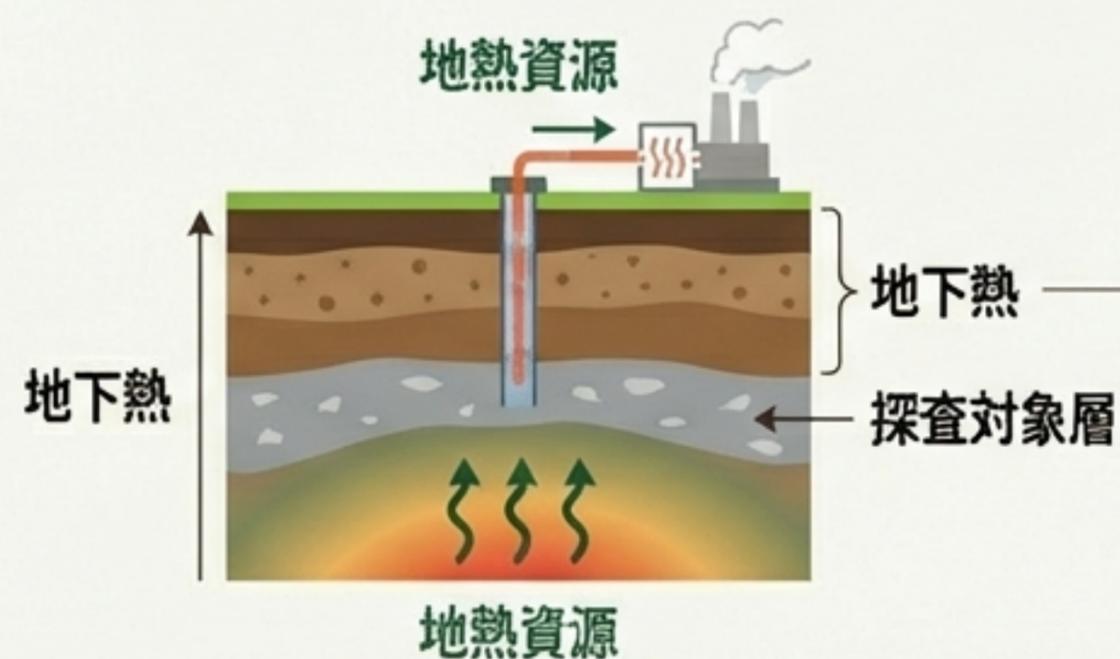


土地とエネルギー：次世代への資源



■ 農地流動化の現状

- 傾向：「賃貸」から「売買」へ（高齢離農者の資産現金化）
- 課題：物価高で新規就農者が買いにくい
- 対策：農業委員会によるマッチングと集積



■ 地熱資源調査（JOGMEC）

- 令和4年：空中探査実施
- 令和6-7年：トムラウシ地域での地表調査進行中
- 現状：調査継続中（結果は未定）

市街地と農村：ゴミ収集頻度の格差

Tokachi Soil Brown
#4A3B32

市街地エリア



Noto Sans JP

Noto Serif JP
(Regular)

燃やせるゴミ：週2回

農村エリア



Tokachi Soil Brown
#4A3B32

Noto Sans JP

燃やせるゴミ：週1回（または月2回）

Noto Serif JP
(Regular)

Paper White
Tokachi Soil Brown

住民の声：「農家も街の人と同じ量のゴミが出ます。回数を増やせませんか？」

Noto Serif JP
(Regular)

Alert Persimmon
#E05A47

行政の現実：「収集回数の増加は、トラック・人件費に直結します。予算は厳しい状況です。」

Noto Serif JP
(Regular)

Forest Deep Green
#2C4C3B

解決策の模索：市街地通勤時のゴミステーション利用（許可制）など、コストとサービスの「譲り合い」を提案。

Noto Serif JP
(Regular)

つながるコミュニティ：デジタルとリアル

情報伝達



TV 8チャンネルの「dボタン」。
スマホを持たない高齢者へ、180文字の緊急情報を配信。

移住定住

- 体験住宅利用者：13組 / 24名
- **移住実績：0件**
- 新戦略：完全移住だけでなく「二拠点生活」層をターゲットに。

ふるさと会



札幌会員 80名 / 東京会員 140名との絆を維持。

生活の質と財政の現実をバランスする

財政：過疎債を活用し、必要なインフラ投資を行う「借入フェーズ」へ。

サービス：医療からゴミ収集まで、単純な拡大ではなく「最適化（ICT、シェア）」へ。

対話：将来の負担について、行政は「丁寧な説明」を約束。

「持続可能な行政運営には、未来のコストを理解することが不可欠です。」